

保育所における調理担当者の教材作りに関する研究

Study on making teaching materials of person in charge of cooking at nursery school

曾我 郁恵・森本 恭子

Ikue SOGA, Kyoko MORIMOTO

背景

昨年度の研究の課題として、次のことがあげられた。
昨年度、保育所と学校が連携した食育の進めかたをテーマに研究をすすめた。その中で、食育実践において教材が果たす役割が大きいことは再確認できた。昨年度のテーマである連携のきっかけとして、教材作成を行い、実際に食育に使用したいとの意見や、食育への意欲を持っていただくことができ、今後も継続してほしいという参加者の要望もあった。

目的

保育所における食育の必要性は、「楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針」¹⁾でも積極的に推進することが求められている。調理担当者の業務は多岐にわたるが、なかでも食育の推進は、調理担当者が専門性を活かして取り組むことのできる業務である。保育所に通う幼児期の子どもは、言葉を読み書きすることが十分ではない。そのため、食育の内容を理解するうえで、教材を使用することにより、理解を増すことができる。

しかし、保育所の調理担当者は人数が少なく、教材作りは日々の多忙な業務の中で十分に行うことが難しいのが現状である。また、教材作りの習得を望んでいる調理担当者もみられることより、教材作りについて学ぶ場をもつことが保育現場の要望としてあることを把握した。

そこで、教材作りに特化したセミナーを開催することを目的とし、この研究を計画した。

研究内容

I. 食育実践における教材作りに関する要望の把握

昨年度のセミナー後のアンケートより、食育実践において、次のような教材作りに関する要望があることを把握した。

- ・教材作りを試行錯誤で行っている者もあり、習得を望んでいる調理担当者もみられる。
- ・教材作りを共に学び、教材作りを通して食育に関する意見交換の場としたい。

II. 教材作りに関するセミナーの開催

保育所における調理担当者の教材作りに関する研究を進めるにあたり、調理担当者を対象にセミナーを開催した。

◇セミナー「保育計画に基づいた食育の展開」

実施日：9月24日（土）

参加者：10名

参加職種：栄養士

セミナー開催にあたり、津山市保育協議会にセミナー開催の目的説明を行い、実施した。

<当日のプログラム>

1. 受付・開会	
2. セミナー開催の趣旨説明	助手 曾我 郁恵
3. 講義 「保育計画に基づいた食育の展開」	鏡野町立認定こども園 芳野保育園 管理栄養士 濱田 美加子先生
4. 演習 「教材を作ってみよう」 ◇食育の教材づくり	濱田 美加子 先生 准教授 森本 恭子先生 助手 曾我 郁恵 参加者
5. 意見交換会	講師 森本 恭子先生 助手 曾我 郁恵 参加者
6. 閉会	

*1 美作大学生活科学部 食物学科 助手・修士

Research Associate, Dept. of Food Science, Mimasaka Univ., M. ed

*2 美作大学生活科学部 食物学科 准教授・修士

Associate Professor. of Food Science, Mimasaka Univ., M. ed

食育展開にあたり、次の食育実践計画書を使用した。保育所で共通で使用している計画書が見当たらなかったため、筆者が作成した計画書を使用した。今回のセミナーでの実践発表者が、ご自身の保育所で実践された食育を、この食育実践計画書に書かせていただいた。

実施クラス：5 歳児 指導日：9 月 9 日(金)		食育実践計画書			園長印	担任印	栄養士印
今日の食育のねらい		給食の献立名		おやつ	家庭とともに		
保育所でも家庭でも、自らすすんで手を洗うことができる。					給食だよりに正しい手洗いの仕方について掲載し、手洗いをテーマに食育を行うことを知らせることによって、家族揃って実践できるように啓発する。		
月の保育計画と食育の関連							
子どもの姿	養護			ねらい			関連行事
	食育						
流れ	主な学習内容と活動		指導者の援助・支援			環境を構成する資料	指導場所
食育計画	給食	1.自分の普段の手洗いについて振り返らせる。	子どもたちと共に栄養士の話を聞きながら、今日の栄養士の話に興味を持たせる。	ゴリラ人間が、手を洗わずに給食を食べているところを見せ、手洗いの話に繋げる。	手の形をした画用紙 ゴリラ人形	場所： クラス	
		2.手を洗わず給食を食べると、どうなるかを知る。	子どもたちと共に話を聞きながら、子どもたちの発言を促す。	手を洗わずに給食を食べるとどうなるか答えてもらい、どうしたらよいか一緒に考える。		形態： クラス単位	
		3.手洗いの大切さを知る。	子どもたちが、ペープサートに興味をもつように声かけをしながら、子どもたちと共に話を聞く。	ペープサートを用いて、手にはバイキンがついていることを知らせ、手洗いが大切であることを知らせる。	セロファン	態勢： 着席	
		4.正しい手洗いの方法を知る。	子どもたちと共に話を聞きながら、子どもたちが正しく手洗いができているか確認する。	正しい手洗いの方法を知らせ、紙芝居を読んで話をまとめる。	紙芝居		
		5.自ら、正しい方法で手を洗うことができる。	子どもたちと共に話を聞き、子どもたちが自ら手洗いが行えるよう励ます。	給食を食べる前に、手洗いを行ったか聞き、家に帰ってからも自ら行えるよう意欲を持たせる。			
指導段階別	3 歳児		4 歳児		5 歳児		特記事項
	手洗いの大切さを知る。		正しい手洗いの方法を知る。		保育所でも家庭でも、自らすすんで手を洗うことができる。		
の保育士			の栄養士				

次に、食育に使用した教材を紹介する。
教材を使用するうえでの配慮点としては、次の2点があげられる。
・手軽に作れるもの、身近で手に入るもの、安価で手に入るもの
・子どもは動くものに興味を示すため、動く教材が効果的である

バイキンが手から落ちる様子を、セロファンを用いて演出していた。子供たちは、動くものに興味を示すため、印象に残りやすく、効果的であった。

子どもたちになじみやすいよう、キャラクターを使用した。



石鹸の泡を画用紙と割り箸で作成した。



今回使用した教材は、作成に時間がかかることなく、安価で手に入れることができ、保育所の3歳児、4歳児、5歳児のどの年齢においても使用できるものであった。

今後は、年に1〜2回、教材作り、各園の食育例の紹介、子どもに話を聞かせる話し方、指導の進め方などを行ってほしいという意見があった。

<指導風景・教材作成風景>

普段保育所で作成する時は一人作業の事も多いが、同じ職種の方が集まることによって、ベテランの方から経験年数の短い方へアドバイスをされたり、情報共有をされながら進めることができた。



教材を実際に使用して、実践発表者に実演を行っていただいた。現場の先生方からは、他の保育所での食育を実践する場を見る機会がほしいという声もあり、また、同じ教材であっても、食育をする人によって伝わり方が異なるため、食育の方法や技術を実際に見ることができたのは、大変貴重な機会であった。



このセミナーを実施後に、参加者の方にアンケート調査を実施した。

- ・教材作りは、半数以上の施設が調理担当者が行っていたが、保育士と共同で行っている施設もあった。
- ・参加者の90%の者が、教材作りに困っているという結果であった。内容としては、作成する時間がない、どのように作ったらいいかわからない、アイデアがわからないという声があった。
- ・今回のセミナーでは、実際に食育実践計画に基づき教材を作成したことにより、教材の作成方法に加え、使用方法も知ることができ、好評であった。

研究のまとめ

◇保育現場で実際に指導された先生が、本物の教材を使用し、食育実践計画に沿って進められた指導を見ることにより、理解が深まった。

◇普段の教材作りで工夫されていること、困っていることなどに関して意見交換ができた。また、教材作りに関する意見交換から食育の実際を知る場を提供できたことは有意義であった。

しかし、今回、教材の効果的な利用方法については検討できなかった。

今後の課題

教材を作成するだけでなく、作成した教材をどのように使用することが食育の効果을あげるために必要であるかを検討する必要がある。そのためには、調理担当者が食育計画書を使用して食育計画を立案し、そのうえで教材の効果的な利用について習得する場が必要である。

謝辞

本研究にあたり、津山市保育園協議会の皆様、津山市内の保育所調理担当者の皆様、鏡野町立認定こども園 芳野保育園 管理栄養士 濱田美加子先生、食物学科 森本恭子先生のご指導・ご協力に対して、深謝申し上げます。

参考文献

- 1) 楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針
厚生労働省 平成16年3月

